



▲小野寺道綱の墓(栃木市指定文化財)とその脇を通る東北自動車道

国都賀郡・佐野郷に属する小野寺村を取り上げます。村の大半を占める山あいからの流れを集める水路と並行する往還、現在同じ場所を山裾を縫うように縦貫する東北自動車道と西へ向かう北関東自動車道が通っているのでした。

絵図にみえる「城」の文字は中世の古城址で、全国小野寺氏の濫觴地と喧伝されるもの。残念ながら東北への高速自動車道のためその痕跡が失われていますが、城主のひとりで鎌倉幕府の御家人であったという小野寺道綱の墓石がひっそりと高速脇の田圃に佇んでいます。小野寺氏には戦国末期まで出羽国仙北(秋田県)を拠点とする一族があり、同氏を頼って移住した佐々木氏の子孫がわがまちの偉人のひとり鮭延秀綱でした。

絵図の「城」から北上した位置にある「大慈寺」は、慈覚大師円仁(794~864年)ゆかりの寺として周知のことでしょう。遣唐使船による自らの留学記録『入唐求法巡礼行記』

は、円仁が著した日本最初の旅行記、また歴史資料としてよく読まれており世界中から高い評価を得ています。大慈寺隣の「薬師堂」は行基手彫りの薬師如来を安置していたといい、かの小野小町が篤く信心したという伝承が残ります。

また、その近傍に祀られた小町の墓は、古河藩郡奉行の三箇左次兵衛の建立と伝わるもの。大慈寺の隣「八幡社」は延喜式内下野11社のひとつ「村檜神社」のこと。檜皮葺の荘厳なその社殿は、国の重要文化財に指定されています。

見せ所の多い絵図は、ひとり小野寺村だけではありません。もと榎本城といい、本多忠純の治めた城下町で廃藩のため古河藩に組み込まれた東水代村など、紹介し尽くせぬ絵図を陳列中です。ぜひご観覧のほどを。

古河歴史博物館学芸員 永用俊彦



▲三箇左次兵衛が建てたという小野小町の墓



◀国重要文化財「村檜神社」